
Entroncamento

について

エンロンカメント

エンロンカメント (Entroncamento) は、19世紀の終わりに、北部行きの鉄道路線と東部行きの路線の連絡駅である国内で最も重要な駅を中心として発展しはじめたところです。連絡駅であることから、国中のありとあらゆる地方から働き手が集まり、ここに住みつくようになりました。彼らは、花で飾られた小さな家々が並ぶ「鉄道地区」と呼ばれる地域に住んでいました。

以上のような鉄道と町の間接関係をしのばせるものが、町の随所に見受けられます。その一例が、町の公園です。そこにはかつての蒸気機関車が飾られ、現在は観光案内所となっています。

料理に関して言うならば、この地の住民同様、もともとは他の地方の料理だったものです。代表料理の例としては、アソルダ (açor das) (パン、ハーブ類、ジャガイモのピューレ) や、バカリャウ・アサード・コン・パタタス・ア・ムーロ (bacalhau assado com batatas a murro) (干しダラのロースト、小さなベイクドポテト添え)、フェイジョアード (feijoadas) (豚肉と豆の煮込み) などです。スイーツ類の例としては、パン・デ・ロ (pão-de-ló) (スポンジケーキ) やティジェラーダ (tigeladas) (オーブンで焼いた卵、小麦粉、砂糖のパンケーキ) などです。